

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 5 月 12 日現在

機関番号：13701

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2014～2016

課題番号：26860345

研究課題名(和文) 専門職連携における医療人としてのアイデンティティ形成過程の解明とその教育的応用

研究課題名(英文) Exploring the processes of interprofessional identity formation and its educational implications

研究代表者

今福 輪太郎 (Imafuku, Rintaro)

岐阜大学・医学部・併任講師

研究者番号：40649802

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、医療における専門職連携が重視される状況で、医療者が専門職連携者としてのアイデンティティをどのように形成していくかを探索的に解明した。卒前教育では、コミュニケーションやチームとチームワーク、役割と責任など、専門職連携に必要な基本的コンピテンシーを段階的に獲得する学生の姿を記述した。また、卒後の医療実践では、専門職連携に従事する医療者が困難を乗り越え、新たな医療人としてのアイデンティティを形成した経験を記述した。卒前教育の学生の認識と卒後の医療者の経験の語りという2つの研究アプローチから得た調査結果は、卒前と卒後をつなぐ専門職連携教育の開発に寄与するものである。

研究成果の概要(英文)：In the current context of emphasizing the importance of interprofessional work (IPW) in healthcare, this study explored how health professionals have formed their interprofessional identities. This study found that the undergraduate students gradually acquired basic competencies necessary to IPW through participation in interprofessional education, including communication, teamwork and roles/responsibilities. This study also described how the health professionals have overcome the difficulties that were encountered in IPW and the processes of forming their 'new' identities as a health professional. These findings from the studies that have examined undergraduates' perceptions of IPW and health professionals' experiences in IPW will contribute to the development of interprofessional education that bridges a gap between undergraduate and postgraduate education programs.

研究分野：医療者教育

キーワード：専門職連携 アイデンティティ形成 医療者教育 質的研究手法

1. 研究開始当初の背景

近年、患者中心医療の質向上のために、医療専門職は連携して患者の治療やケアにあたる専門職連携実践 (Inter-Professional Work, 以下 IPW) の重要性が国内外で認められている。グレッグ (2000) は、各々の医療専門職の態度や行動の発達には、医療を提供する医療者としての自己認識、つまり専門職アイデンティティーの確立が大きく関係すると述べている¹⁾。さらに、IPW に従事する際は、自分自身の専門職アイデンティティーに加え、「チームでの協働方法や専門性の発揮の仕方といった自己の在り方」を形成しなければならない。つまり、IPW での自己認識は、参与する医療チームの文化や価値、規範を自己の中に取り入れ、自身の形成した専門職アイデンティティーと交渉しながら再構築する必要がある。そのため、より複雑な形成過程を踏むことが指摘されている²⁾。以上から、医療現場での IPW の重要性は指摘されているが、IPW における医療者としての自己形成過程は、複雑・多様であり、従来研究では十分に解明されていない。

国内外の医療系大学は、卒後のチーム医療実践の重要性を受け止め、他学部生と共に、お互いから学びながら、お互いのことを学ぶ専門職連携教育 (Inter-Professional Education, 以下 IPE) を卒前教育に導入してきている³⁾。卒前 IPE の教育効果として、「他職種の役割の理解と尊重」や「チームワークの重要性の認識」「自己の専門職の役割の理解」「患者中心医療の重要性の認識」等が報告されている^{4,5)}。しかし、多くの先行研究は1つの IPE プログラムの教育効果に重点を置き、その長期的教育効果としての専門職アイデンティティー形成過程を検証した研究は非常に少ない³⁾。また、長期的教育効果を調査することにより、指摘されている「IPE の教育内容」と「IPW の現場での活動」との乖離をなくすために、IPW の実践内容を踏まえた卒前 IPE プログラムの開発が必要となる⁶⁾。

2. 研究の目的

IPW における専門職アイデンティティー形成過程とそこに及ぼす要因を明らかにするため、下記の研究目的を設定した。

- (1) 卒前医療者教育における学部学生の IPE の学習経験と IPW に対する認識の縦断的参与観察
- (2) 卒後の医療実践における医療従事者の IPW の経験の語りと、「多職種連携者」になっていく過程の分析

3. 研究の方法

(1) 医療系学生の専門職アイデンティティー形成過程の解析

卒前 IPE カリキュラムの実施内容が異なる複数の教育施設にてデータ収集を実施した。対象者は、各施設の医学、看護・薬学・歯学・作業・理学療法などの学生を対象にした。

IPE セミナーに参加する学生 (29 名) を対象とし、その討議場面のビデオ撮影を行なった。逐語録にしたデータは、談話分析手法により分析された。なお、ビデオ録画は、授業参加者全員の同意を得て実施された。

また、IPE への参加学生 (25 名) のポートフォリオ (学習のふりかえり) の記述内容を分析し、IPW に対する態度と専門職アイデンティティーの形成過程を検証した。記述内容は、グランデッドセオリー分析手法を用い、カテゴリー化・理論化を行なった。

(2) 医療従事者の経験の語りの解析

研究協力に同意を得た IPW に従事する歯科衛生士計 7 名に対し半構造化インタビューを実施した。インタビューでは、卒前教育から医療現場への移行期を中心に、多職種連携の経験のふりかえりを促した。その際に、自身の経験と関連づけながら「専門職としての役割」や「IPW での役割」「多職種との協働の認識」「患者ケアの方針・信条」等の意識変化について想起させた。逐語録にしたデータは、グランデッドセオリー分析手法を用い、カテゴリー化・理論化を行なった。

4. 研究成果

(1) IPE セミナーでの討議 (談話分析):

IPE セミナーは、参加者にとって医療チーム内での専門職としての役割を深く理解する機会となった。特に、歯科系学生は、他学部生が口と全身の関連や口腔ケアを見過ごす傾向にあると気づき、患者ケアにおいて歯科の重要性を強調する事が自分の役割だと認識した。さらに、歯科衛生学生は介護や栄養指導の知識の必要性を実感し、自分の役割の幅広さを再認識した。グループ討議では、単に歯学的情報を提供するのではなく、多職種間での討議内容を踏まえ、歯科領域の知識を共有する場面が多く観察された。つまり、口腔ケアや経口摂取を全身と関連させることで、どのように多職種と連携して患者ケアに貢献すべきかを考えることができた。以上から、専門職意識が高められただけでなく、医療現場での専門職連携が具体的にイメージできるようになったといえる。一方で、討議内で「歯科領域の意見の切り出し方」「医療現場での歯科専門用語の使用」「わかりやすい説明」等の難しさを感じ、今後の課題も明らかとなった。

(2) IPE カリキュラムにおける学習の振り返

り（ポートフォリオ解析）：

ポートフォリオの質的分析から《コミュニケーション》《チーム/チームワーク》《医療人としての役割・責任》《グループでの役割・責任》の4つの主要カテゴリーを抽出した（図1参照）。例えば、初年次学生の経年的な認識の変化として、前期 IPE では、過去の学習経験と異なる学習環境への順応により焦点がおかれ、協働学習への積極的参加・傾聴といった《コミュニケーション》、情報検索・活用に関する情報リテラシーなど、個人の学習行動に対する反省や達成感の記述が多くみられた。初年次体験実習では、施設利用者や医療従事者、患者との交流により状況に合った言動・世代の違う相手との話題構築・患者の不安や痛みの理解の重要性など、対人コミュニケーションに関する深い考察が多くされていた。また、医療現場を見学することで医療人としての意識形成の促進が認められた。後期 IPE では、個人の学習行動に加え、患者の心情の理解を含む《医療人としての役割・責任》や協働的態度やリーダーシップ等の《チームとチームワーク》をより重視する振り返りが多くされていた。以上から、前期 IPE では、学習者中心のグループ学習環境への順応に必要な基盤形成、初年次体験実習では、対人コミュニケーション能力の重要性の気づきと医療人としての意識形成、後期 IPE では、「個人」から「グループ全体」への学習に対する視野の広がり具体的な医療人としての展望を持った協働学習の実践が促進されている傾向が見られた。

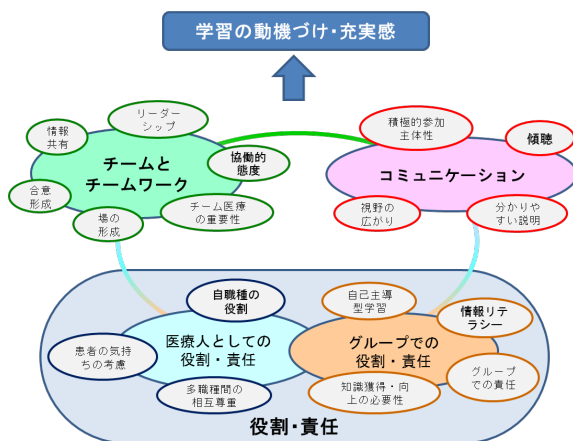


図1

(3) IPW の医療実践者の経験の語り（インタビュー調査）

IPW の文脈で強く意識された歯科衛生士のあるべき姿は下記の3つに分類された。

「自分自身の特性」として 広い視野や 高い専門性（知識・スキル）を有し 根拠に基づいた言動・口腔ケアが

実践できる。

「患者との関係からみた自分」として円滑なコミュニケーションを通して患者との信頼関係を構築し、総合的に患者を理解できる。また、社会的心理的背景の理解に基づいた支援提供や患者の意欲を引き出すことができる。

「医療チーム内の自分」では、口腔ケアの専門職としてリーダーシップを取り、組織のマネジメントができる。また、後輩歯科衛生士に対する高い教育力の必要性を挙げた。一方で、IPWにおいて他職種の専門用語の理解や顔の見える関係作りの難しさ、歯科代表としての責任からくる心理的不安を経験していた。

つまり、歯科衛生士の事例研究から、IPWにおけるアイデンティティ形成は、共同体への参画とメンバーとの関係性を通して形成されることが明らかとなった⁷⁾。また、自分自身の専門領域の共同体（歯科チーム）と多職種連携の共同体を行き来する経験や具象化されたツールの開発を通して、「協働者」「共同体管理者」「教育者」「エキスパート」など新たな自己意識の形成が促された（図2）。さらに、こうした参画を通して、各々の共同体の発展にも寄与することが示唆された。

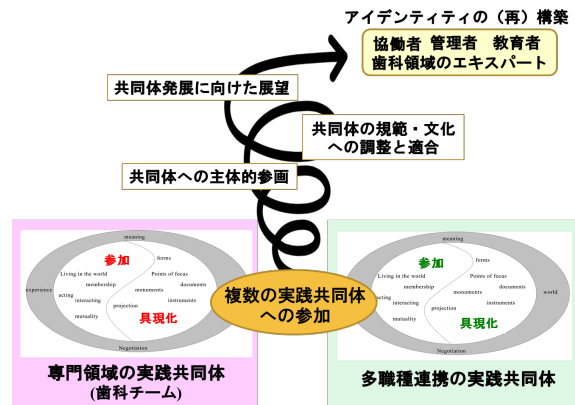


図2

(4) 今後の展望

卒前 IPE で得られた学びは、チームとチームワーク、コミュニケーション、役割と責任のカテゴリーが抽出されたが、先行文献にある価値観と倫理の記述内容はあまりみられなかった。これは、医療人としての価値観と倫理が医療現場の経験を通して醸成される場合が多いためだと考えられる。今後は、シミュレーション教育手法の活用や臨床実習に IPE を導入する教育開発が必要になってくる。また、卒後の医療実践に目を向けると、本研究で対象とした歯科衛生士は、IPWにおいて自身の専門職と専門職連携者の2つの実践共同体を認知的に行き来することが観察さ

れた。特に、専門職連携では、個人レベル、チームレベル、組織レベルで各々難しさを感じていたが、IPW の実践共同体への主体的参加や他者との関係性を通して、専門職連携者としてのアイデンティティを構築していった。今後は、医療者が抱える IPW の難しさがどのように克服されていったのかの具体的な事例をさらに蓄積する必要がある。

引用文献

- 1) グレック美鈴. (2000) 看護における一重要概念としての看護婦の職業的アイデンティティ, *Quality Nursing*, 6(10).
- 2) Khalili, H et al. (2013). An interprofessional socialization framework for developing an interprofessional identity among health professions students. *Journal of Interprofessional Care*, 27(6), 448-453.
- 3) 朝比奈真由美. (2010) 専門職連携教育 (IPE), 専門職連携 (IPW). *医学教育白書* (187-190): 篠原出版新社.
- 4) Hall, P, Weaver, L. (2001) Interdisciplinary education and teamwork: a long and winding road. *Medical Education*, 35, 867-875.
- 5) Thistlethwaite, J. (2012) Interprofessional education: a review of context, learning and the research agenda. *Medical Education*, 46, 58-70.
- 6) Ravet, J. (2012) From interprofessional education to interprofessional practice. *Professional Development in Education*, 38(1), 49-64.
- 7) Wenger, E. (1998) *Communities of practice: learning, meaning, and identity*. Cambridge: Cambridge University Press.

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計 9 件)

小倉浩, 刑部慶太郎, 片岡竜太, 鈴木久義, 今福輪太郎, 榎田めぐみ, 木内祐二, 田中一正, 倉田知光: 医系総合大学における初年次専門職連携教育の教育効果, *保健医療福祉連携: 連携教育と連携実践*, 9 巻 1 号, 2016, 29-38. (査読有)

Rintaro Imafuku, Takuya Saiki, Yasuyuki Suzuki. *Developing Undergraduate Research in Japanese Medical Education*, Council on Undergraduate Research Quarterly, 37(1), 2016, 34-40. (査読有)

Rintaro Imafuku, Susan Bridges: *Analyzing interactions in PBL-Where to*

go from here?. *Interdisciplinary Journal of Problem-based Learning*, 10(2), 2016. <https://dx.doi.org/10.7771/1541-5015.1648> (査読有)

榎田めぐみ, 片岡竜太, 鈴木久義, 今福輪太郎, 小倉浩, 刑部慶太郎, 松木恵理, 下司映一, 木内祐二, 高木康: 臨床シナリオを用いた学部連携 PBL チュートリアルが多職種連携教育における有用性の検討, *保健医療福祉連携: 連携教育と連携実践*, 8(1), 2015, 10-19. (査読有)

川上ちひろ, 西城卓也, 今福輪太郎, 村岡千種, 藤崎和彦, 丹羽雅之, 鈴木康之: 施設を超える、職種を超える: 多施設合同学生向け多職種連携教育課外セミナーに取り組んだ3年間. *医学教育*, 46(2), 2015, 178-184. (査読有)

今福輪太郎: 医療者に求められる資質・能力の涵養と評価 - MEDC の研究活動から - . *新しい医学教育の流れ*, 15(1), 2015, 6-9. (査読無)

Rintaro Imafuku, Takuya Saiki, Chihiro Kawakami, Yasuyuki Suzuki: How do students' perceptions of research and approaches to learning change in undergraduate research?. *International Journal of Medical Education*, 2015, 6, 47-55. (査読有)

Rintaro Imafuku, Ryuta Kataoka, Mitsuri Mayahara, Hisayoshi Suzuki, Takuya Saiki. Students' experiences in interdisciplinary problem-based learning: A discourse analysis of group interaction. *Interdisciplinary Journal of Problem-Based Learning*. 8(2), 2014, 1-18. (査読有)

今福輪太郎: 特集「多職種連携教育」を読んで. *医学教育*, 45(4), 2014, 296-297. (査読無)

[学会発表](計 13 件)

Rintaro Imafuku, Koji Tsunekawa, Chihiro Kawakami, Kaho Hayakawa, Kazuhiko Fujisaki. Video-recording as a stimulus for reflection in medical interview training. *Association of Standardized Patient Educators (ASPE) Asia Pacific Conference*, Singapore, 2016.11.18-20.

Rintaro Imafuku, Yukiko Nagatani, Tetsuji Ogawa. *Complexities of*

(inter)professional identity formation: The voices of dental hygienist. Association for Medical Education in Europe conference, Barcelona, Spain, 2016. 8.27-31.

小倉浩, 天野弘美, 刑部慶太郎, 片岡竜太, 鈴木久義, 今福輪太郎, 榎田めぐみ, 木内祐二, 田中一正, 倉田知光. テキストマイニングの手法を用いたポートフォリオ記述文書の特徴把握(1). 第48回日本医学教育学会大会, 大阪, 2016.7.29-30.

榎田めぐみ, 鈴木久義, 今福輪太郎, 小倉浩, 刑部慶太郎, 木内祐二, 下司映一, 片岡竜太. 多職種連携教育のコンピテンシー ポートフォリオ及び参与観察による質的検討から. 第48回日本医学教育学会大会, 大阪, 2016.7.29-30.

今福輪太郎, 片岡竜太, 美島健二, 佐藤裕二, 弘中祥司, 城茂治, 近藤尚知, 越野寿, 豊下祥史. 「超高齢社会に対応できる歯科医師養成」での学習経験と成果: 学生へのインタビューの質的分析結果. 第35回日本歯科医学教育学会大会, 大阪, 2016.7.1-2.

Rintaro Imafuku, Ryuta Kataoka, Hisayoshi Suzuki, Hiroshi Ogura, Megumi Enokida, Keitaro Osakabe. What did first-year students actually experience in interdisciplinary education? : A qualitative analysis of learning portfolio. Association for Medical Education in Europe conference, Glasgow, UK, 2015.9.5-9.

今福輪太郎, 長谷由紀子, 小川哲次. 多職種連携での医療専門職アイデンティティ形成に関する一考察: 病院歯科衛生士の経験から. 第34回日本歯科医学教育学会学術大会, 鹿児島, 2015.7.10-11.

Ryuta Kataoka, Hisayoshi Suzuki, Rintaro Imafuku, Hiroshi Ogura, Eri Matsuki, Megumi Enokida, Keitaro Osakabe. Assessment in the interdisciplinary PBL tutorials and hospital practicum as an educational program for a team approach to health care. International Conference Assessment for Learning in Higher Education, Hong Kong, 2015.5.13-15.

今福輪太郎, 片岡竜太, 小倉浩, 刑部慶太郎, 鈴木久義, 榎田めぐみ, 馬谷原光織, 松木恵里, 高木康, 木内祐二, 下司映一, 倉田知光. 初年次学部連携教育に

おける学習過程の縦断的調査 - ポートフォリオの質的分析から. 第7回日本保健医療福祉連携教育学会, 新潟, 2014.9.20-21.

Rintaro Imafuku, Chihiro Kawakami, Takuya Saiki, Kazuhiko Fujisaki, Masayuki Niwa, Yasuyuki Suzuki. Classroom discourse in interprofessional education: the negotiation and co-construction of meanings among students from different health professionals. Association for Medical Education in Europe conference, Milan, Italy, 2014. 8.30-9.3.

今福輪太郎, 片岡竜太, 馬谷原光織, 小倉浩, 刑部慶太郎, 鈴木久義, 榎田めぐみ, 松木恵里, 倉田知光, 高木康, 木内祐二, 下司映一. 初年次学部連携教育を通して学生は何を学んだのか ポートフォリオの質的分析から. 第46回日本医学教育学会、和歌山、2014.7.18-19.

今福輪太郎, 石津恵津子, 高阪利美, 鈴木一吉. 医療専門職連携セミナーでの歯科系学生の学びと今後の課題. 第33回日本歯科医学教育学会、北九州、2014.7.4-5.

Hisayoshi Suzuki, Ryuta Kataoka, Mitsuori Mayahara, Rintaro Imafuku. Effectiveness of the interdisciplinary PBL tutorial as an educational program for team approach to health care. 16th International Congress of the World Federation of Occupational Therapists, Yokohama, Japan, 2014.6.18-21.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

今福輪太郎 (IMAFUKU, Rintaro)
岐阜大学・医学部・併任講師
研究者番号: 40649802

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし